

# JAふくしま未来 福島地区本部 【果樹防除情報 6月号】

ふ未福営発第222号  
令和6年5月24日

○もも⇒穿孔細菌病 ○なし⇒黒星病 ○りんご⇒腐らん病  
発生状況をよく確認の上、発病している場合は耕種的防除を必ず実施し薬剤散布を行って下さい。  
【散布時間帯については、早朝5時以降開始にご協力ください。また、通勤や通学の時間帯も避けてください。】

※不明の点等ございましたら、担当営農指導員にお問い合わせください。

●今回の防除情報については下記の内容にてお知らせさせていただきます。なお、防除内容の確認を行い作成しておりますが、皆様におかれましても防除の際には、防除暦を参照するとともに使用農薬に記載されている希釈倍数等の内容を必ず確認してください。

【もも】(防除暦 27～29頁参照) 注意事項:展着剤は、各樹種共通でアイヤーエース10,000倍(10cc)又はラビデン3S 10,000倍(10cc)を使用する。

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)		SS 散布量	
7	6/1頃	せん孔細菌病 黒星病・灰星病 果実赤点病 モモハモグリガ・ハマキムシ類 アブラムシ類・シンクイムシ類	合ピレ剤使用可能地域 1. デランフロアブル 600倍 (165cc) 2. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g) 3. フェニックスフロアブル 4,000倍 (25cc)		合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. デランフロアブル 600倍 (165cc) 2. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g) 3. サイアノックス水和剤 1,000倍 (100g)	300ℓ
		1. アブラムシ(コフキアブラムシ)の発生が多い場合は今回以降、ウララDF2,000倍(50g)も散布する。 2. サイアノックス水和剤は収穫前21日なので、早生種には注意する。				
※灰星病・ホモブシス腐敗病の重要防除期に入るので、ムラなく散布すること。 ※せん孔細菌病・すすかび病・果実赤点病の感染期に入るので、有袋栽培の場合は散布後すみやかに被袋すること。						
8	6/11頃	せん孔細菌病・黒星病・灰星病 ホモブシス腐敗病・果実赤点病・すすかび病 (カメムシ類)(シンクイムシ類) (モモハモグリガ)(ハマキムシ類)	1. 展着剤 2. マイコシールド 2,000倍 (50g) 3. ダコレート水和剤 1,000倍 (100g)			300ℓ
		1. カメムシ類、シンクイムシ類の発生が多い場合は、スミチオン乳剤1,000倍(100cc)も使用する。 2. モモシンクイガの発生が多い園では、バイオセーフを使用する。使用にあたっては17ページを参照する。(土壌かん注) ③マイコシールドは収穫前21日なので、早生種(はつひめ・日川白鳳・暁星)はマイコシールドにかえて、デランフロアブル(収穫前7日)600倍(165cc)を使用する。				
9	6/21頃	黒星病・灰星病・ホモブシス腐敗病 果実赤点病・すすかび病・(せん孔細菌病) (シンクイムシ類)(モモハモグリガ) (ハマキムシ類)(コガネムシ類)(ハダニ類)	1. 展着剤 2. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g)			300ℓ
		1. せん孔細菌病の発生が見られる園ではバリダシン液剤500倍(200cc)も使用する。なお、菊の隣接園ではバリダシン液剤に替えてスターナ水和剤1,000倍(100g)を使用する。但し、両剤とも早生種には使用しない。 2. シンクイムシ類、モモハモグリガの発生が多い場合はヨーパルフロアブル1万倍(10cc)も使用する。但し、合ピレ使用規制地域では使用しないこと。 3. ハダニ類の発生が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(50cc)も使用する。なお、卵には効果がないので、今回散布5～7日後にも散布する。散布の際は展着剤は使用しないこと。梨の隣接園では飛散しないよう注意する。				

【りんご】(防除暦 52～54頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)		SS 散布量	
今回以降、褐斑病、輪紋病、炭そ病等の重要防除時期に入るので、10a当り500ℓ、また散布間隔を10日以上あげずムラなく散布すること。						
6	6/5頃	斑点落葉病・輪紋病 黒星病・褐斑病・炭そ病 シンクイムシ類・キンモンホソガ ギンモンハモグリガ・カメムシ類 アブラムシ類・リンゴワタムシ クワコナカイガラムシ・(カイガラムシ類)	合ピレ剤使用可能地域 1. アビオンE 1,000倍 (100cc) 2. オキシラン水和剤 500倍 (200g) 3. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g) 【カルシウム剤】		合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. アビオンE 1,000倍 (100cc) 2. オキシラン水和剤 500倍 (200g) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g) 【カルシウム剤】	500ℓ
		1. モモシンクイガの発生が多い園ではバイオセーフを使用する。使用にあたっては17ページを参照する。(土壌かん注) ※ナシマルカイガラムシ(サンホーゼカイガラムシ)対策として、アブロードフロアブル1,000倍(100cc)も使用する。 【注意】但し、防除特報により第5回目(5/24頃)にアブロードフロアブルを使用している場合は、使用回数超過(年間2回まで)となるため使用しない。				
7	6/15頃	斑点落葉病・黒星病・輪紋病 すす点・すす斑病・褐斑病 うどんこ病・モニア病・(クワコナカイガラムシ) (リンゴワタムシ)(ハダニ類)	1. アビオンE 1,000倍 (100cc) 2. オートサイド水和剤 600倍 (165g) 3. ユニックス顆粒水和剤 2,000倍 (50g) 【カルシウム剤】			500ℓ
		1. リンゴワタムシの発生が多い場合はサイアノックス水和剤1,000倍(100g)も使用する。ただし、使用回数年1回なので注意すること。 2. ユニックス顆粒水和剤は、オウトウに対しては薬害を発生するおそれがあるので、付近にある場合はかからないように注意する。 3. ハダニ類の発生が多い場合は、アカリタッチ乳剤2,000倍(50cc)も使用する。但し、アビオンEは使用しない。また、今回散布後5～7日後にも散布する。但し、展着剤は使用しない。また、アカリタッチ乳剤は一番最後に混用する。				
8	6/25頃	斑点落葉病・輪紋病・褐斑病 炭そ病・黒点病・黒星病 すす点・すす斑病 シンクイムシ類・キンモンホソガ アブラムシ類・ハマキムシ類・(ヒメボクトウ)	合ピレ剤使用可能地域 1. アビオンE 1,000倍 (100cc) 2. キノンドー顆粒水和剤 1,000倍 (100g) 3. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g) 4. アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)		合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯) 1. アビオンE 1,000倍 (100cc) 2. キノンドー顆粒水和剤 1,000倍 (100g) 3. ベルクート水和剤 1,000倍 (100g) 4. オリオン水和剤 1,000倍 (100g)	500ℓ
		1. ヒメボクトウの発生が多い園では、フェニックスフロアブル4,000倍(25cc)を枝幹部に散布する。				

【 な し 】 幸水・豊水・あきづき・秀玉・新高・王秋等（防除暦81～82頁参照）

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
8	6/3頃	輪紋病 黒星病 (アブラムシ類)(ハマキムシ類) (シャクトリムシ類)(ケムシ類)	1. 展着剤 2. オキシラン水和剤 500倍 (200g)	300ℓ
		1. アブラムシの発生が多い場合は、ウララDF4,000倍(25g)も使用する。 2. ハマキムシ類、シャクトリムシ類、ケムシ類の発生が多い場合は、合ピレ剤使用可能地域ではバイオマックスDF2,000倍(50g)、合ピレ剤使用規制地域ではダイアジノン水和剤1,000倍(100g)も使用する。		
※梅雨期に入り降雨が長びく場合、例年輪紋病、黒星病の発生が多い園では、今回以降梅雨明けまでの散布を7日間隔とする。ただし、薬剤の使用回数に注意する。				
9	6/13頃	輪紋病 黒星病	1. 展着剤 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	300ℓ
		1. ナリアWDGは、ピオーネ、ル・レクチェに薬害を生ずるおそれがあるので注意して散布する。		
10	6/23頃	輪紋病・黒星病 シンクイムシ類・アブラムシ類 カイガラムシ類	1. 展着剤 2. ベルクート水和剤 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g) 1,000倍 (100g)	300ℓ
		1. ベルクート水和剤は、ル・レクチェにさび果を生じるので、かからないよう注意する。 2. オウトウ、モモの隣接園では、かからないように注意する。		

【 な し 】 二十世紀・南水（防除暦89～90頁参照）

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
8	6/3頃	黒斑病 黒星病 (アブラムシ類)(ハマキムシ類) (シャクトリムシ類)(ケムシ類)	1. 展着剤 2. オキシラン水和剤 500倍 (200g)	300ℓ
		1. アブラムシの発生が多い場合は、ウララDF4,000倍(25g)も使用する。 2. ハマキムシ類、シャクトリムシ類、ケムシ類の発生が多い場合は、合ピレ剤使用可能地域ではバイオマックスDF2,000倍(50g)、合ピレ剤使用規制地域ではダイアジノン水和剤1,000倍(100g)も使用する。		
9	6/13頃	黒斑病 黒星病	1. 展着剤 2. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	300ℓ
		1. 今回散布後、できるだけ早く大袋掛けを行う。 2. ナリアWDGは、ピオーネ、ル・レクチェに薬害を生ずるおそれがあるので注意して散布する。		
10	6/23頃	黒斑病・黒星病 シンクイムシ類 カイガラムシ類	1. 展着剤 2. ベルクート水和剤 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g) 1,000倍 (100g)	300ℓ
		1. ベルクート水和剤は、ル・レクチェにさび果を生じるので、かからないよう注意する。		

【 ぶ どう 】 (防除暦 126～127頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
6	6月上旬頃 満開後	灰色かび病・黒とう病・べと病 晩腐病・褐斑病・さび病 アザミウマ類・フタテンヒメヨコバイ カイガラムシ類	1. ストロビードライフロアブル 2,000倍 (50g) 2. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	200ℓ
		<b>晩腐病感染防止対策として、紙傘かけを実施する。</b>		
7	6月中旬頃 幼果期	黒とう病・晩腐病 褐斑病・灰色かび病 チャノキイロアサミウマ クビアカスカシバ・コガネムシ類	1. ミギワ20フロアブル 2,000倍 (50cc) 2. テツパン液剤 2,000倍 (50cc)	200ℓ
		1. 今回の散布時期は、果粒が小豆程度以下の大きさを散布する。 2. 種なし品種については第2回目ジベレリン処理前に散布する。		
8	6月下旬頃	晩腐病・褐斑病 黒とう病・べと病 (チャノキイロアサミウマ)(カイガラムシ類)	1. ホライズンドライフロアブル 2,500倍 (40g)	200ℓ
		1. チャノキイロアザミウマ、カイガラムシ類の発生が多い場合には、コルト顆粒水和剤3,000倍(33g)も使用する。		

【 お う と う 】 (防除暦 146~147頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
7	収穫直前 (6/5頃)	灰 星 病 オウトウショウシ`ョウハ`エ ハマキムシ類	1. ロブラール500アクア 1,500倍 (65cc) 2. ディアナWDG 1万倍 (10g) 2. まくぴか 5,000倍 (20cc)	300ℓ
8	6/12頃 (晩生種)	灰 星 病 オウトウショウシ`ョウハ`エ	1. インダーフロアブル 5,000倍 (20cc) 2. アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g) 3. まくぴか 5,000倍 (20cc)	300ℓ
特別 散布	6月下旬 (極晩生種)	オウトウショウシ`ョウハ`エ ( 灰 星 病 )	1. スカウトフロアブル 3,000倍 (33cc) 2. まくぴか 5,000倍 (20cc)	300ℓ
9	収穫直後	褐色せん孔病 アメリカシロヒトリ ハマキムシ類	1. 展着剤(ラビデン3S) 2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g)	500ℓ
		1. アメリカシロヒトリの発生が多い場合は、ダイアジノン水和剤にかえてフェニックスフロアブル4,000倍(25cc)を使用する。 2. コスカシバの発生が多い園では、7月10日頃までにバイオセーフを使用すると効果が高い。使用にあたっては17ページを参照する。 (被覆資材除去後に主幹部)		

【 か き 】 (防除暦 157頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
3	落花直後 (6/5頃)	炭そ病・すす点病 うどんこ病・落葉病 アザミウマ類・カイガラムシ類 カメムシ類・(ハマキムシ類)	1. 展着剤 2. フルーツセイバー 1,500倍 (65cc) 3. モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍 (50g)	400ℓ
		1. 合ピレ剤使用規制地域では、モスピラン顆粒水溶剤にかえて、ダイアジノン水和剤1,000倍(100g)を使用する。		
4	6/20頃	落葉病・イラガ類 カメムシ類・フジコナカイガラムシ アメリカシロヒトリ・(アザミウマ類)	1. 展着剤 2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 3. スミチオン乳剤 1,000倍 (100cc)	400ℓ
		【落葉病、重要防除時期】 1. 前年、カイガラムシ類、アザミウマ類の発生が多い園では、コルト顆粒水和剤3,000倍(33g)も使用する。		

【 す も も 】 (防除暦 169頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
5	6/1頃	シンクイムシ類 ハマキムシ類・ケムシ類	1. 展着剤 2. フェニックスフロアブル 4,000倍 (25cc)	300ℓ
		1. 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では、フェニックスフロアブルにかえてオリオン水和剤1,000倍(100g)を使用する。		
6	6/11頃	炭そ病 モモノゴマダラノメイガ アブラムシ類・シンクイムシ類	1. 展着剤 2. ストロビードライフロアブル 2,000倍 (50g) 3. バリアード顆粒水和剤 4,000倍 (25g)	300ℓ
		1. 合ピレ剤使用規制地域(養蚕地帯)では、バリアード顆粒水和剤にかえてオリオン水和剤1,000倍(100g)を使用する。		
7	6/21頃 (大石早生収穫直前)	灰 星 病 (モモシンクイガ)(ハダニ類)	1. ロブラール水和剤 1,500倍 (65g)	300ℓ
		1. ハダニ類の発生密度が低い時期に今回以降ダニゲッターフロアブル2,000倍(50cc)も使用する。 2. モモシンクイガの発生が多い園ではバイオセーフを使用する。使用するにあたっては17ページを参照する。		

【 う め 】 (防除暦 179頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
特別 散布	収穫直前 6/5頃 (高田梅)	黒 星 病 灰 色 カ ビ 病	1. 展着剤 2. インダーフロアブル 5,000倍 (20cc)	350ℓ

【 ネ ク タ リ ン 】 (防除暦 190頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度(水100ℓ当り)	SS 散布量
7	6/1頃	黒星病・せん孔細菌病 ハマキムシ類 モモハモグリガ・シンクイムシ類	1. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 2. マイコシールド 2,000倍 (50g) 3. フェニックスフロアブル 4,000倍 (25cc)	300ℓ
		1. 合ピレ剤使用規制地域では、フェニックスフロアブルにかえて、サイアノックス水和剤1,000倍(100g)を使用する。		
8	6/11頃	灰星病・黒星病・シンクイムシ類 ハマキムシ類・アブラムシ類・カイガラムシ類 (モモシンクイガ)・(せん孔細菌病)	1. 展着剤 2. ダコニール1000 1,000倍 (100cc) 3. ダイアジノン水和剤 1,000倍 (100g)	300ℓ
		1. モモシンクイガの発生が多い園では、バイオセーフを使用する。(防除暦17ページ参照。) 2. コスカシバの発生が多い園では、バイオセーフを使用すると効果が高い。(防除暦17ページ参照。) 3. せん孔細菌病の発生が見られる園では、スターナ水和剤1,000倍(100g)も使用する。		
9	6/21頃	灰星病・黒星病 ホモプシス腐敗病・(シンクイムシ類)	1. 展着剤 2. ベルクートフロアブル 1,500倍 (65cc)	300ℓ
		1. シンクイムシ類及びハマキムシ類の発生が多い場合は、ダイアジノン水和剤1,000倍(100g)も使用する。但し、早生種には使用しない。		

※表中の日付は果樹研究所(飯坂町平野)を基準にしております。各園地との差異を考慮して、適期防除に努めてください。

☆農薬散布は、無風又は風の弱いときに行うなど、近隣に影響の少ない天候の良い日を選んで散布しましょう。  
散布時間帯についても通学や出勤時間帯は避け、住宅地に混在している園地では十分注意して散布をお願い致します。また、希釈倍数・散布量・散布時期(収穫前日数)にも十分注意してください。